

南伊豆地域のごみの減量化・リサイクルを考えるワークショップ

南伊豆地域広域ごみ処理事業
ワークショップ通信 No.1
2022.10.16(日)開催

南伊豆地域(下田市及び南伊豆町、松崎町、西伊豆町)は、人口減少等に伴うごみ量の減少(施設稼働率の低下)や施設の老朽化といったごみ処理に関する共通の課題を抱えています。

持続可能なごみ処理体制を継続していくため、1市3町のごみ処理施設を集約化し、新たな施設で広域処理をすることを計画しています。

今後のごみ処理には、ごみの減量化、資源化の推進が必要不可欠であり、これらを実現していくため、1市3町の住民、事業者及び行政が協力し、ごみの減量化や資源化の推進など、ごみ処理の各段階でできることを一緒に考え、地域全体で循環型社会の形成に取り組んでいく必要があります。

今回は、前回(3月6日開催)のキックオフで行われたワークショップからの継続となり、前回参加者に加え1市3町からの一般公募者も新たに加わり、ごみの減量化・リサイクルを考えるワークショップ(第1回)を開催しました。

第1回ワークショップを開催



第1回ワークショップは、一般公募で集まった1市3町の住民の方や下田市内の事業者の方、下田高校の生徒、先生、1市3町の行政職員、有識者など計25名にご参加いただきました。

参加者を5グループに分け、一般社団法人会議ファシリテーター普及協会の小野寺郷子(おのでら さとこ)さんの進行で行われました。

ワークショップの様子

ごみの分別ゲームからスタートし、1市3町の状況などの情報提供をしたのち、それぞれの立場から「ごみの減量やリサイクル」について、気になること、頑張っていること、現在、取り組んでいることなどの意見交換をし、グループ内での意見を3案に絞り、グループごとに発表をしていただきました。



Aグループの意見交換の様子



Cグループの意見交換の様子



Eグループの意見交換の様子



Bグループの発表の様子



Dグループの発表の様子

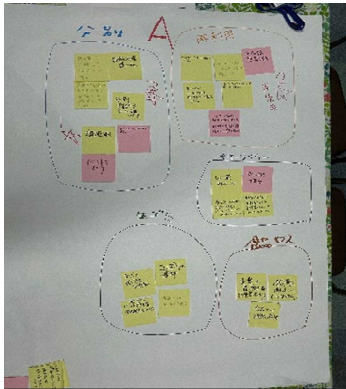
グループごとに活発な意見交換が行われ、意見を項目ごとにまとめ、発表を行いました。

出た意見は
次ページ



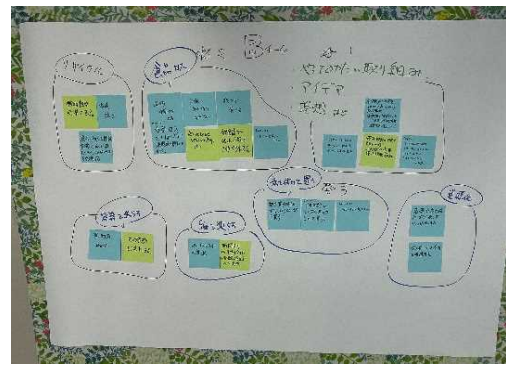
各グループから出た意見

Aグループ



- ・集団回収の推進
- ・分別を推進するチームをつくる。
- ・衣類などの再利用の検討
- ・生ごみバイオ処理施設の建設
- ・量り売りや直接買うなどでパッケージフリーとする。

Bグループ



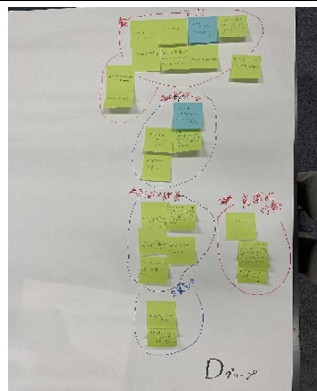
- ・月2回の分別の日に子供も一緒に連れていき、分別について意識づけをする。
- ・多く作りすぎない、残さず食べる。
- ・商品を購入する際に、ごみにならないものを買う。
- ・ダンボールコンポストの推進
- ・古着などを欲しい人へ販売したり交換したりする。

Cグループ



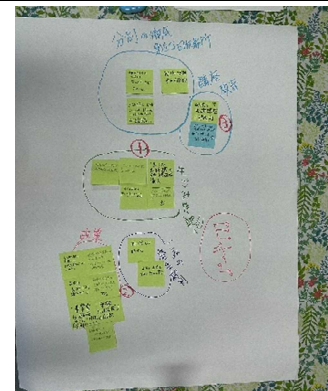
- ・資源は燃やさず再利用
- ・生ごみはコンポストへ投入
- ・古着の再利用、再使用
- ・食材は必要な分だけ買う。
- ・販売時の容器包装などはやめ、量り売りなどを推進
- ・地域のリーダー養成

Dグループ



- ・食材全てを食べられるようなアイデアやレシピの開発
- ・生ごみの再生「キエーロ」
- ・古着のリサイクル
- ・再利用できない布の有効活用
- ・意識改革の推進
- ・容器包装は自然にもどるものを使う

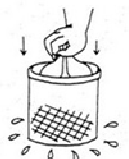
Eグループ



- ・生ごみの堆肥化
- ・再利用が可能な交換センターの設置
- ・地域で出前講座(子供も)
- ・必要なものか考えて買う
- ・容器包装の分別徹底

生ごみの水切りモニター調査

家庭ごみから排出されるごみのうち、生ごみは2割～3割の割合で排出されており、そこを減量化することでごみ全体量の減少につながるため、まずは、生ごみに的を絞って、実際に参加者にモニター調査として水切り用の器具を配布し、どれだけ効果があるのかの検証を行い、その結果を公表していきたいと考えています。



生ごみの水切り方法